



弘前医療福祉大学紀要

*Journal of Hirosaki University
of
Health and Welfare*

第9巻 第1号
2018年3月発行

弘前医療福祉大紀要
J. Hirosaki Univ. Health Welf.

弘前医療福祉大学紀要編集委員会

第9巻第1号紀要発行に寄せて

弘前医療福祉大学

学長 下 田 肇

現代における大学の役割は、地域に対して教育・研究、人材育成を通して社会貢献活動をすることにあります。

さて、青森県も少子高齢化が進んでおり、18歳人口の減少による大学の入学者の確保が困難になっておりますが、本学においては医療、看護、リハビリテーション、介護、救急救命、食育の分野の専門職の育成を通して、県民の健康増進、短命県返上のため入学者の確保が急務であります。

そして、多くの卒業生が県内にとどまり各々の分野で活躍していただきたいと思います。

先生方の研究実績がすぐれた論文となり、本学の特色ある教育内容と各自の自己研鑽の成果が地域社会に公表されることにより本学の目的とする大学理念が理解されることを期待します。

目 次

紀要発行に寄せて……………	弘前医療福祉大学学長 下 田 肇	
[原 著] 青森ヒバ (<i>Thujopsis dolabrata</i> SIEB. et ZUCC. var. <i>hondai</i> MAKINO) の葉の植物化学的 プロファイルと抗酸化活性について 長岐 正彦、後藤 嘉文、山内可南子、工藤 重光、長南 幸安……………		1
[原 著] 女子大学生の不定愁訴と生活習慣、栄養バランスとの関連 斎藤 真澄、三浦 美環、早川 和江、富田 恵、野宮 富子、 小玉 有子、佐藤 厚子……………		9
[原 著] 弘前市内におけるAEDの設置・使用可能時間に関する実態調査 木村 綾子、板垣喜代子、立岡 伸章、中畑 時克、工藤 春月、矢嶋 和江……………		19
[原 著] ヨシゴイ (<i>Ixobrychus sinensis</i>) のクラッチサイズ 佐原 雄二……………		27
[研究ノート] 青森県における吃音臨床の現状と今後の課題 —青森県言語聴覚士会会員所属施設を対象としたアンケート調査から— 小山内筆子、成田 智……………		31
[特 集 1] 報告・公開講座 公開講座「始めよう、食生活改善！一目で分かる栄養バランス」 佐藤 厚子……………		39
公開講座「がんは治る、がんによる死を防ぐために」 土田 成紀……………		42
公開講座「自動車運転再開に対するリハビリテーションの支援」 成田 旬生……………		44
[特 集 2] 研究紹介 弘前医療福祉大学 研究活動紹介 (平成28年10月～平成29年9月)……………		49
紀要規程・投稿要項……………		57
編集後記 紀要編集委員会委員		

弘前医療福祉大学紀要規程

(目的)

第1条 弘前医療福祉大学（以下「本学」という）における紀要の名称を「弘前医療福祉大学紀要」Journal of Hirosaki University of Health and Welfare (ISSN 2185-0550) とし、以下「紀要」という。

紀要は本学における研究成果発表を目的として、定期的に刊行される。

(発刊)

第2条 紀要の発刊は原則として年1回とし、本学紀要編集委員会（以下「委員会」という）がその任にあたる。委員会の委員は教授会の議を経て選出され、任期は原則として2年とする。

2 紀要は、発刊前年度の10月1日から発刊年度の9月30日までに投稿された論文を一号として刊行する。

3 発刊期日は原則として発刊年度の末日までとする。

(投稿資格者)

第3条 紀要への投稿資格者は、次のとおりとする。

- 1) 本学専任教員
- 2) 第一号の共同研究者。但し、筆頭著者は本学専任教員とする。
- 3) その他、委員会が適切と認めた者

(受付・査読・採否)

第4条 投稿原稿は他誌に未掲載で且つ投稿中ではない論文に限る。

2 投稿原稿は各学科の委員を経て随時受け付けられ、委員会は預かり証を発行する。

3 預かった論文のうち短報以外はすべて第三者に査読される。査読後、委員会は投稿論文の種類・内容・体裁について修正を求めることがある。

4 論文の採否は委員会において決定され、その結果は書面で通知される。

(著作権)

第5条 掲載論文の著作権は本学に帰属し、論文の電子化は了承されたものとする。

但し著者が当該論文を利用する場合は本学の許諾を必要としない。

(経費負担)

第6条 投稿原稿が規定の枚数を超過した分については、著者の負担とする。

2 初校の際には別刷の必要部数を委員会に申告するものとする。

3 別刷は10部まで共通経費負担とし、それを越えた分は著者負担とする。

(倫理的配慮)

第7条 投稿論文は、倫理的配慮がなされ、且つその旨が本文中に明記されなければならない。

(その他)

第8条 論文の投稿要項に関しては、委員会が別に定める。

附則 本規程は2009年7月16日から施行する。

本規程は2013年5月21日から施行する。

弘前医療福祉大学紀要投稿要項

1. 投稿論文

投稿論文は他誌に未掲載で且つ投稿中ではない和文及び英文の総説、論説、原著、研究報告、研究ノート、短報、その他とし、随時受け付ける。

2. 論文の種類

他誌に未掲載で投稿中ではない以下①-⑦の論文を受け付ける。

尚、①-⑤は査読があり、⑥⑦は査読なしとする。

- ① 総説：ある主題に関連した研究の解説、総括
- ② 論説：主題に関する理論の構築、展望、提言
- ③ 原著：独創的な研究により、新しい知見、理論を示した論文
- ④ 研究報告：研究上の問題提起、興味深い事実や実態・事例・症例に関する論文
- ⑤ 研究ノート：論文としては未整理であるが、すぐに知らせる意義のある研究
- ⑥ 短報：教育実践報告、研修報告、国際学会、セミナー報告
- ⑦ その他：委員会が必要と認めたもの

3. 投稿資格者

- 1) 本学専任教員
- 2) 1) の共同研究者
- 3) その他 委員会が適切と認めた者

4. 倫理的配慮

人および動物を対象にする研究では、倫理的に配慮し、その旨を本文中に明記する。

研究が適切に行われたことを示すため、「本研究は弘前医療福祉大学研究倫理規程に沿って行われた」、英語論文の場合は“The study was performed in accordance with the Rules for Ethics of Study, Hirosaki University of Health and Welfare.”と文中、または文末に明記する。

執筆・投稿要領

1. 原稿の構成と表記

- 1) 原稿はA4版、10ポイントで1枚につき40字(英字・数字は半角)×40行 横書きとする。

原著、研究報告、総説、論説は10枚(16000字)以内とし、研究ノート、短報、その他は5枚(8000字)以内とする。但し、図表1枚は800字(半枚)分に数えるものとする。欧文の場合にはA4版、ダブルスペースで1枚につき26行でタイプする。

欧文は必ずnative speakerによる校閲を受けたものであること。

- 2) 表紙には論文題名、著者名、所属および所在地(希望するならe-mailアドレスも)を和文と欧文の両方でそれぞれ明記する。さらに本文枚数(引用文献、要旨を含む)、図、表、写真、図表の説明文などの枚数を記載し、最後に論文の種類:「原著」(例)のように明記する。2枚目には600字以内の和文要旨とキーワード3-5語、3枚目には300語以内の英文要旨とkeywords 3-5語を記す。

- 3) 図表の使用は最小限にとどめ、「図1」、「表1」、「写真1」等 それぞれの通し番号をつけ、本文とは別に一括する。

これらの挿入希望場所を本文原稿右余白にそれぞれ指定する。図、表、写真については印刷時の大きさを明記する(例:原寸、70%、50%など)。

- 4) 外国の人名、地名に原語を用いるほか、叙述中の外国語にはできるだけ訳語をつける。
- 5) 注は脚注として最小限にとどめる。

2. 文献記載の様式

- 1) 文献は、本文の引用箇所の肩に1)-3)と表し、最後に一括して引用順に掲げる。
- 2) 文献は、“引用”や“参考”をつけず、「文献(References)」として扱う。

3) 文献の記載方法・順序

〈雑誌〉著者名：表題名. 雑誌名. 巻(号)：頁-頁, 発行年

〈単行本〉著者名：論文題名. 書名(版表示). 編者名. 頁-頁. 発行地：出版社. 発行年

〈訳本〉著者名：論文題名. 書名(版表示). 編者名. 訳者名. 頁-頁. 発行地：出版社. 発行年

3. 投稿の際の提出書類

1) 原稿：表紙、和文要旨、英文要旨、本文、図表

(総説・論説・原著・研究報告・研究ノート・短報 ともに1部、査読を要するものについてはコピーを2部提出する。コピー2部については、著者名、所属、謝辞ほか著者を特定できるような事項を削除する。)

2) 紀要原稿提出書と原稿受領書をセットで提出する。(大学共有ファイル内)：連絡先(氏名、住所、電話番号、メールアドレス)と別刷希望部数を記入する。

3) USBメモリまたはCD(1枚)；ソフトはワードとし、ファイル名を「本文」「和文要旨」「英文要旨」「図1」などとする。但し、提出は論文受理後とする。

4. 謝辞、大学の正式な英語名等について

1) 学長指定研究等は謝辞に記載する。

例

「本研究は弘前医療福祉大学学長指定研究により行われた。」

英文の一例を記載する。

This article was partially supported by a grant for designated research provided by the President of Hirosaki University of Health and Welfare.

2) 大学などの正式な英語名および省略形を使用する場合の参考例を記載した。

弘前医療福祉大学

Hirosaki University of Health and Welfare Hirosaki Univ Hlth & Welf

保健学部

School of Health Sciences Sch Hlth Sci

看護学科

Department of Nursing Dept Nursing

医療技術学科

Department of Rehabilitation Sciences Dept Rehabil Sci

作業療法学専攻

Division of Occupational Therapy Div OT

言語聴覚学専攻

Division of Speech-Language-Hearing Therapy Div ST

5. その他

1) 著者校正は原則として一校までとする。校正時の大幅な追加、修正は原則として認めない。

2) 別刷は10部まで共通経費による負担とする。

編 集 後 記

弘前医療福祉大学紀要編集委員会
委員長 長 岐 正 彦

厳しい寒さの中で開催されたピョンチャンオリンピックも終盤を迎える頃ですが、己を信じて活躍する選手達には感動を覚えます。

この時期になって、ようやく、本学の紀要第9巻第1号をお届けすることが出来ます。論文の内訳は、原著論文が4編、研究ノート1編です。その他、特集として公開講座3編および当大学の教員の研究活動の紹介を掲載してあります。

今回も下田学長より、巻頭言を頂いております。さらに、学長は、学都ひろさき86—大学コンソーシアム学都ひろさき教員通信においても「地域に根ざした大学のあり方について」述べておられます。18歳人口の減少に伴う入学者の確保が難しい中、地域の学生に自分の生まれ住んでいる大学へ進学してもらう努力をしなければならないことと、青森県の短命県返上のためにも医療、看護、救急救命、リハビリテーション、介護、食育の分野の専門職育成が急務であることについてです。

暦の上では雨水も過ぎ春ですが、実際にも三寒四温を繰り返しながら確実に春に向かっているようです。この春には、5回目の卒業生が巣立っていきます。多くの卒業生が、この地に就職してくれることを望みます。この地で社会貢献することが県の活性化、短命県返上に重要になってくる筈です。

弘前医療福祉大学
紀要編集委員会

委員長 長岐正彦
副委員長 佐原雄二
委員 早狩 誠
委員 佐藤厚子

Journal of Hirosaki University of Health and Welfare

弘前医療福祉大学紀要

第9巻 第1号

平成30年3月31日発行

編集・発行 〒036-8102 弘前市小比内3-18-1
弘前医療福祉大学内 紀要編集委員会
TEL：0172-27-1001

印刷所 〒036-8061 弘前市神田4-4-5
やまと印刷株式会社
TEL：0172-34-4111 FAX：0172-36-3299

Contents

[Foreword]

Message from the President
Hajime Shimoda

[Original]

Phytochemical profile and antioxidant activity of the leaf of Aomori Hiba
(*Thujopsis dolabrata* SIEB. et ZUCC. var. *hondai* MAKINO)
Masahiko Nagaki, Yoshifumi Goto, Kanako Yamanouchi, Shigemitu Kudo, Yukiyasu Chounan 1

[Original]

The relationship between complaints of vague or indeterminate maladies amongst female college students
and their lifestyle and nutritional balance
**Masumi Saito, Mika Miura, Kazue Hayakawa, Megumi Tomita, Tomiko Nomiya,
Ariko Kodama, Atsuko Sato** 9

[Original]

A survey on the status of installation and the usable time of AED in Hirosaki city
**Ryoko Kimura, Kiyoko Itagaki, Nobuaki Tatioka, Tokikatsu Nakahata,
Shungetsu Kudo, Kazue Yajima** 19

[Original]

Clutch size of the Yellow Bittern, *Ixobrychus sinensis*, in Tsugaru Plain
Yuji Sawara 27

[Report]

The current situation and future issues relevant to the treatment of stuttering in Aomori Prefecture
— Results of a questionnaire survey by Aomori Prefecture Speech-Language-Hearing
Therapist Association members —
Fudeko Osanai, Satoru Narita 31

[Other Report]

Extension: Let's get started, improve your food life! Nutritional balance understood at a glance
Atsuko Sato 39

[Other Report]

Extension: Way to prevent death due to cancers
Shigeki Tsuchida 42

[Other Report]

Extension: Support on rehabilitation for driving resumption
Tsukaki Narita 44

[Special Edition]

Research Activities 49